

次年度に向けた「水田のワキ」及び「ノビエ」対策等について

氷見市農業協同組合
高岡農林振興センター

氷見市内の令和 7 年産水稻栽培において、一部のほ場で水田のワキや、表層剥離、ノビエ等の発生がみられました。(秋耕の未実施や、米収穫後の雑草発生等が、移植後の硫化水素・メタンガスの発生原因となり、生育不良の要因となっています)

こうした問題の改善を図るため、下記対策の今秋実施について、ぜひご検討願います。

①額縁排水溝を設置するなど、溝掘りや溝切りを行い、排水を促進する。(米収穫後、なるべく速やかに行う。)

※ 後日、スムーズに秋耕作業を行うために重要な作業です。

②水田へ除草剤を散布する。

※ 除草効果を高めるため、散布後 5 日間程度は下記③、④の作業を行わない。

ア. 特にヒエを除草したい場合

・・・プリグロックス L を 10 アール当たり 100 リットル (100 倍) 散布する。

イ. ヒエ (1 年生) 以外に、オモダカやアシカキ等の多年生雑草を除草したい場合

・・・ラウンドアップマックスロードを 10 アール当たり 100 リットル (100 倍) 散布する。

③土づくり資材を散布する。

【氷見市の水田土壌の実態】

(R 5 土壌診断結果より)

	腐植 (%)	リン酸 (mg/100g)	カリ (mg/100g)	有効態ケイ酸 (mg/100g)	p H
目標値	3	15	20	沖積：25 洪積：30～55	6
沖積土壌 (平野部 89 か所平均)	2.2	14.3	18.9	17.2	6.3
洪積土壌 (山間部 23 か所平均)	2.5	19.1	25.4	15.1	5.8

・沖積土壌では、圃場により、カリ、ケイ酸が不足していることがあるため、土壌分析結果を参考に土づくり資材を選定する。

・洪積土壌では、特に、ケイ酸が不足している傾向にある。

カリ：土壌中のカリ含量が少ない場合、収量減となりやすい。
ケイ酸：不足の場合、(1) 稲体が軟弱になり倒伏しやすい、(2) 光合成能が劣り収量が減る、(3) 高温で白未熟が発生しやすいなどの弊害が生じる。

⇒特にケイ酸不足の場合は「土力源」、カリとケイ酸が両方不足している場合は「鉄田満太郎」を 10 アール当たり 100kg 施用する。

④秋耕を実施する。

作土深 10cm により稲わらを土壌中にすき込み、腐熟促進を図る。

※ 稲わらを米収穫後の秋にすき込んだ場合、翌春にすき込んだ場合と比べて、水稻栽培期間全体における硫化水素やメタンガス等の有害ガスの発生量が 4 割程度に軽減されます。

⑤上記①から④の作業を、遅くとも 10 月中旬までに完了する。

農薬を調製・散布する時は、マスクなど防護装備を正しく着用しましょう。